

JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	大塚 圭	学校名	東京都 中央大学杉並高等学校
担当教科等	英語	対象学年（人数）	高校1年・2年・3年（26名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2020年10月～11月（3時間）		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：総合的な学習(探究)の時間		
2. 単元(活動)名：SDGsでつなぐ国際協力		
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ：「国際協力×SDGs」 単元目標：SDGsを通して国際協力の意味を考え、多角的な視野に触れること 関連する学習指導要領上の目標： (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。 (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。		
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能	先進国及び途上国の社会問題とSDGsとの関連性を理解できるようにする。
	②思考力、判断力、表現力等	資料や統計データを読み取り、情報を整理して課題を設定できるようにする。
	③学びに向かう力、人間性等	先進国と途上国の課題を同時に解決するアイデアを協働して考え、発信できるようにする。
5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	【単元設定の理由】 SDGsを通して国際協力を捉えると、先進国と開発途上国における環境、開発、人権、平和、多文化、持続可能性などの幅広い問題を協力して解決していくというプロセスを読み取ることができる。SDGsは、先進国と途上国の課題を同時に解決するための架け橋（ツール）であるという認識のもとに、生徒たちが多角的に国際協力という概念を理解する機会として、本単元を設定した。 【単元の意義】 国際協力やSDGsの題材を通して、個人の価値観は普遍的に共有されたものではなく、周りの環境に影響を受けていることを認識して自己の視点を見直し、実社会や実生活において多角的な視野で物事を考えられるようにすることを目的としている。 【児童/生徒観】 本校では、土曜日の3・4時間目を「土曜講座」として高校の通常カリキュラムとは別にさまざまな選択講座を用意し、生徒一人ひとりが各自の興味・関心に応じて履修できるようにしている。本単元は、この土曜講座の一つとして開講されているため、国際協力やSDGsに興味のある生徒が参加している。しかし、学年が異なり、お互いに初対面の生徒が多いので、最初に良好な人間関係を構築するように配慮する必要がある。 【指導観】 生徒たちの興味のある国は、欧米諸国などの先進国及び近隣諸国であり、非常に偏った視点を持っている。政治的・経済的・歴史的な欧米型の枠組みだけでなく、各国の生活様式や文化的背景を反映した多元的価値に触れてもらいたい。	

6. 単元計画 (全3時間)				
時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	SDGs の概要と日本の社会問題	<ul style="list-style-type: none"> 先進国と途上国について視点をずらしてみる。 SDGs の概要を理解する。 日本の社会問題とSDGs との関連性を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本とキルギスの高校生におけるアンケートを比較して、「なぜ日本の高校生と日本とは異なる社会・文化を持つキルギスの高校生が同じ欧米諸国に興味を持つのだろうか？」について意見を共有する。 国連作成のDVDを視聴してSDGsの概要を理解する。 SDGs に関係すると思われる写真を見てSDGs のどの目標に関連しているのか意見を共有し、発表する。 (写真は生徒が事前に1枚撮影) (例: 通勤電車・コンビニ弁当・ゴミ不法投棄) 「持続可能な開発レポート2020」における日本の目標達成度について情報を共有する。 学んだことを踏まえて、「SDGs とは・・・」と端的に表現する。 	<p>【動画】 国連広報センター「持続可能な開発とは？」</p> <p>【資料】 「持続可能な開発レポート2020」</p>
2	SDGs と途上国の社会問題	<ul style="list-style-type: none"> 途上国の社会問題とSDGs との関連性を知る。 カンボジアの社会問題を理解する。 資料を整理・分析して発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校で実施しているカンボジアでの研修の写真を見て、カンボジアには、どのような社会問題があるのか自分の「予想」及びそれらの問題は、SDGs のどの目標と関連しているのか考える。 <p>【ジグソー法】</p> <ul style="list-style-type: none"> カンボジアの「教育」「観光と環境」「保健・医療」「産業・労働」についての資料を読み、最も優先的に取り組むべきだと思う課題を理由とともにグループで話し合う。 (エキスパート活動) 一人一人がエキスパート活動で得た知識や考え方を、グループの他の人に説明する。 (ジグソー活動) カンボジアが抱える問題で、最も優先的に取り組むべき社会課題・SDGs の目標について意見を共有し、発表する。 (クロストーク活動) 	<p>【資料】 ジグソー法で使用するカンボジアの「教育」「観光と環境」「保健・医療」「産業・労働」についての資料</p>
3 本時	国際協力とSDGs の役割	<ul style="list-style-type: none"> 先進国と途上国の問題を同時に解決するアイデアを考える。 SDGs を通して、国際協力の役割を理解する。 新たな価値を創造することで多角的な視野に触れる。 	<ul style="list-style-type: none"> One Planet Café の活動における写真を見て日本とザンビアの問題をどのようなアイデアで解決したのか意見を共有する。 ザンビアにある村の貧困問題と日本の環境問題を理解する。 ザンビアのオーガニックバナナ畑で通常捨てられる茎の繊維を利用し、日本の和紙工場できれいな古紙を加え、質の高いバナナペーパーを作るOne Planet Café の活動について意見を共有する。 日本とカンボジアの課題を「一気に串を刺すように」解決するアイデアを考える。 <ol style="list-style-type: none"> 日本の課題をできるだけ多く挙げる。 前回のエキスパート活動で使用した資料を使ってカンボジアの課題を挙げる。 日本とカンボジアの課題を同時に解決するアイデアを考え、SDGs との関連性を含めて発表する。 	<p>【写真】 One Planet Café の活動写真</p> <p>【資料】 カンボジアの「教育」「観光と環境」「保健・医療」「産業・労働」についての資料</p>

7. 本時の展開（3時間目）			
本時のねらい：SDGsを通して先進国と途上国の問題を同時に解決するアイデアを考える			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料（教材）
導入 (5分)	<p>前回までの授業における「日本と途上国の社会問題とSDGsとの関連性」について振り返り、本日の授業の目標は、「先進国と途上国の問題を同時に解決する」であることを説明する。</p> <p>【グループ活動】 One Planet Caféの活動における5枚の写真を見て、日本とザンビアの問題をどのようなアイデアで解決したのか意見を共有する。</p>	<p>数名の生徒を指名して学んだことについて意見を共有する。</p> <p>バナナから紙を作っていることを想像することは難しいので、適宜ヒントを与える。</p>	<p>【写真】 One Planet Caféの活動写真</p>
展開 (40分)	<p>資料を用いて One Planet Café の活動及びザンビアにある村の貧困問題と日本の環境問題を理解する。</p> <p>【グループ活動】 日本とカンボジアの課題を同時に解決するアイデアを考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の課題をできるだけ多く挙げる。 2. 前回の授業で使用した資料を用いて、カンボジアの課題を挙げる。 3. 日本とカンボジアの課題を「一気に串を刺すように」解決するアイデアを考え、意見を共有する。 (SDGsとの関連性を含める) <p>グループで考えたアイデアを代表者が発表する。</p>	<p>同時に問題を解決するプロセスに焦点を当てる。</p> <p>一つひとつのステップに十分な時間を使うように留意する。</p> <p>アイデアの質よりも考えるプロセスを重視する。</p> <p>改善点などの意見を共有する。</p>	<p>【資料】 One Planet Café のバナナペーパーについてのスライド</p> <p>【資料】 カンボジアの「教育」「観光と環境」「保健・医療」「産業・労働」についての資料 (本時で使用した資料の一部に掲載)</p>
まとめ (5分)	<p>SDGsとは多角的に物事を考えるときに活用する世界共通のツールであることを説明する。</p> <p>振り返りシートに「Keep (このまま継続すること)」「Problem (課題)」「Try (解決策)」という3つの項目を踏まえて記入する。</p>	<p>個人で考えるように促す。</p>	

<p>8. 評価規準に基づく本時の評価方法</p> <p>毎回の授業における振り返りシート・授業全体の感想シート・グループ活動の観察・解決策のアイデアなどを観点に単元の評価規準の「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を評価する。</p>
<p>9. 学習方法及び外部との連携</p> <p>今回の授業では、学年が異なり、お互いに初対面の生徒が多いので、最初に良好な人間関係を構築するために自己紹介などを含むアイスブレイクの時間を通常授業より多く設定した。また、3年生とは事前に打ち合わせをして、ファシリテーターとしての役割を認識してもらうようにした。そのため、フォトランゲージやジグソー法を活用したアクティビティでは、3年生が1年生と2年生に声をかけ、発言しやすい雰囲気を作ってくれたことで、積極的な議論をすることができた。良好な人間関係を築くための時間及び事前の打ち合わせの効果を実感することができた。また、教師海外研修でお世話になった One Planet Café の活動は、本単元の「SDGs でつなぐ国際協力」に合致した取り組みであったため、生徒が SDGs を通して二つの国の問題を同時に解決する国際協力についてイメージを持つために非常に重要な資料となった。</p>
<p>10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組</p> <p>SDGs やカンボジアについての知識などの不足を補うために、基本的には地歴公民科の教員とティームティーチングで本単元を実施した。ジグソー法で使用したカンボジアの資料などは、地歴公民科の教員によって作成されたものである。また、SDGs に興味のある教員には、事前に本単元の話をして、授業でグループ活動などのサポートに入ってもらった。</p>

【自己評価】

<p>11. 苦勞した点</p>	<p>高校1年生から3年生までの生徒が混在するために、SDGs や国際協力についての背景知識（今までの授業におけるテーマの扱い）やグループ活動における協働学習による経験などは、学年によって異なるので、議論が上手く進まないこともあった。また、教員にとっては通常授業における専門以外の知識が必要になるために、授業準備に時間がかかってしまうことも継続性を考えるうえで一つの課題である。</p>
<p>12. 改善点</p>	<p>上記の課題を解決するために、1年生や2年生には事前学習としての時間を設定して背景知識になるべく偏りがないようにすることは一つの方策である。また、授業における専門的な知識を補うためには、外部機関との連携が必要である。テーマによっては、外部機関に委託することで、生徒の学びをより充実したものになると考える。その際には、授業の目的や外部機関の伝えたいことなどをしっかりと調整することが重要である。</p>
<p>13. 成果が出た点</p>	<p>本校では、今年度、コロナ禍の影響で海外での研修はすべて中止になり、生徒たちがグローバルな視点で物事を捉えることのできる機会は限定的なものになってしまった。しかし、このような状況の中で、今までの実践を参考にしてSDGs と国際協力をテーマにした授業を実践できたことは大きな成果であると考えている。また、土曜日の3・4時間目という通常授業とは異なる時間設定や希望者のみという形で実施したことでSDGs や国際協力についての生徒のニーズを把握することができた。</p>

<p>14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)</p>	<p>・第1回：SDGsの概要と日本の社会問題 今回の写真を見ながら SDGs について考える時間では、自分では思いつかないような意見もグループの人との話し合いで共有できたので良かったです。例えば、スーパーのカゴに沢山の弁当が入っている写真を見たときに、私は「プラスチック容器による環境破壊」を真っ先に思いましたが、他の人は「手頃な値段で食べ物が手に入る」と考えました。同じ写真を見たとしても、SDGs においてプラスな面とマイナスな面があることに気づかされた瞬間でした。</p> <p>・第2回：SDGs と途上国の社会問題 カンボジアなどの発展途上国において、予想される問題として、貧困や都市部と郊外における経済格差を中心として考えていました。今回、グループ内での話し合い、他のグループとの発表・比較を通して、根本的に考えると「教育」に繋がることに気づきました。しかしながら、これらの情報はカンボジアという国の表面的問題に限られてしまっていると思います。一方で、こちら（先進国）から見た問題が実際に現地では問題として考えられていなかったり、それが普通のこととして考えられていたりと実際の生活を通して、現地の人々の目線から考える必要があると思います。</p> <p>・第3回：国際協力と SDGs の役割 私のグループでは、カンボジアのゴミ問題と日本の過疎の問題を解決するアイデアについて話し合いました。話し合いで出た案は、まず、日本の過疎化地域特有の材料や技術を利用したゴミ箱を作り、それをカンボジアに買ってもらい、そして、そのゴミ箱をカンボジアのゴミが溢れる川の周辺地域に設置するというものです。話し合いでは特に、過疎化地域特有の材料、技術は何であるかを考えるのに時間を多く割きました。2つの問題を解決する一つのアイデアを考えるのは、前回の資料やグループでの話し合いがあっても、とても難しかったです。しかし、「多角的な視野」は、こういう（今回のテーマのようなことを考える）時に必要なんだと思いました。</p> <p>・全体の感想 「多角的な視野から考える」がテーマだけあって、グループごとに違った意見が沢山出てきて大変勉強になった。2回目の授業は特に、エキスパートで分かれて情報をシェアするときの伝え方や捉え方が人によってそれぞれであるし、与えられた情報から思いつく事も人それぞれで、異なった思考回路をもつ人と意見交換する楽しさを改めて感じた。多様な考え方が混在するこの世の中で相手の意見を否定せず受け入れることは大切だと思った。自分の考えをより深めることができるし、新たな発見もあるかもしれない。相手の意見は否定せず、よりよい方向にもっていくという考え方は、大人になってからも忘れないようにしたい。これからも社会問題や世界の問題が尽きることはないと思うため、多角的な視野から物事を考え、積極的に自分の意見を持つと思った。</p>
---	--

15. 授業者による自由記述

教師海外研修に参加して、日本国内から発信する国際協力について学べたことが一番の収穫である。今までは、どちらかと言うと、途上国を中心としたテーマで授業を実践することが多かったが、今回、日本と途上国をつなぐ架け橋となるような国際協力を参考に授業を展開することができた。また、2020年度から順次実施されている新学習指導要領の幼稚園から高等学校における前文に記述されている「持続可能な社会の創り手」を育成するために、「SDGs」と「探究」という二つのキーワードを自身の教育実践にどのように取り入れていくかを深く考える機会になった。

参考資料：

国連広報センター「持続可能な開発とは？」：https://www.youtube.com/watch?v=1c48vhokWLQ&feature=emb_logo

持続可能な開発レポート 2020：

https://s3.amazonaws.com/sustainabledevelopment.report/2020/2020_sustainable_development_report.pdf

One Planet Café：<https://oneplanetcafe.com/>

本時で使用した資料：

One Planet Café の活動写真



One Planet Café のバナナペーパーについての資料

One Planet Caféのバナナペーパー

日本の課題：紙の大量消費

ザンビアの課題：大量の森林伐採
(貧困が原因で違法の森林伐採)

アイデア

ザンビアのオーガニックバナナ畑で通常捨てられる茎の繊維を利用し、日本の和紙工場で古紙を加え、質の高い紙を作ろう！！

環境にやさしい紙・伝統技術の継承・野生動物の保護・雇用創出・バナナは世界の約125ヶ国で栽培

カンボジアについての資料 (抜粋)

エキスパートC

保健・医療

■カンボジアの保健衛生環境・医療体制

カンボジアはインフラ整備が遅れており、総人口の約30%が安全な飲料水にアクセスでき、約17%が適切な衛生設備を利用しています。ゴミ処理も不十分で、蚊やゴキブリ、ネズミも多く、これらが媒介する病気が発生します。また、高温多湿なこの国では食べ物も悪くなりやすく、食中毒などの消化器感染症は最も注意が必要な病気です。医療機関の整備もこれからです。医師や看護師が問診、聴診などにより薬を処方し、血液検査などは多くありません。外国人は、医療施設の整った近隣諸国に行きます。

表 3-1 ASEAN 諸国の主要な保健衛生指標

国名	2017年	2018年	出生率 (人/1,000人)		死亡率 (人/1,000人)	
			出生率	死亡率	出生率	死亡率
カンボジア	20	19	18	10	10	10
タイ	10	9	10	7	7	7
ラオス	18	17	18	10	10	10
ミャンマー	18	17	18	10	10	10
ベトナム	12	11	12	7	7	7
インドネシア	17	16	17	7	7	7
フィリピン	14	13	14	7	7	7
マレーシア	11	10	11	6	6	6
シンガポール	7	6	7	5	5	5
ブルネイ	10	9	10	6	6	6
東ティモール	18	17	18	10	10	10
ASEAN 平均	14	13	14	7	7	7

© 2019 World Bank website: <http://data.worldbank.org/country>; WHO, World Health Statistics 2012; Ministry of Planning, et. al., Cambodia Demographic and Health Survey 2010 & 2014.